

日々の学習が同時に入試対策となる学習法

2022. 7. 3 (日)

定期テスト100点、入試50点はある！

学校の定期テストでいつも100点近くの点数を取っていたとしても、入試で50点しかとれなければ、まず、志望校には合格できません。

えっ！？そんなことあるの？

あります。

狭い範囲のテストでは点数はとれるが、高校入試のようなはるかに広い範囲で、しかも難問が出題されると、そう簡単には高い点数は取れません。

こうした傾向は、いつも一生懸命に勉強している生徒に、10月の模試が始まるあたりから出てくる症候群です。数学の点が取れなくなるのです。定期テストではいつも悪くても90点くらいの数学が、模試で70点や65点などしか取れなくなってしまう生徒が出ます。必ず。

いいですか、これは作り話ではなく、毎年起こる事実です。

これは何を意味しているかといいますと、日々の勉強でも、入試を視野に入れた勉強をしておく必要がある、ということです。

高校受験対策問題集の事実

教科書を筆頭として、参考書、問題集等々は、一定の範囲の、一定のレベルの問題を掲載しております。その問題どうしの内容的な関連、レベル設定などさまざまであり、一定のルールというものはありません。著者の主観によって、問題の内容とレベルが設定されています。

だから、適当な問題集を使って勉強しても、その問題のすべてを解けるようになったからといって、自分の学習目標が達成できるのかどうかはわかりません。

巷の書店には、「高校入試対策問題集」と銘打った問題集が数多くおかれております。

”全国”の書店で売られている本です。

“全国”に共通した受験対策などあるのですか？

学校採用の問題集にも、「発展問題」とか、「C問題」などとタイトルがついている首都圏の有名国立高校や私立高校の入試問題が載っています。

これらの問題については、

数学が好きで、趣味で解く分にはいっこうかまいませんし、推奨するものです。

しかし、数学が苦手なのに、宿題だから解いていかなければならないと、塾にもってくる生徒がおりますが、「そんなの答えを写して提出しろ」と指導します。

学校の先生には、全員の答案の1字1句をチェックする暇などありません。めくら判で宿題をスルーさせます。

つまり、そんなもんは、勉強しても時間の無駄である、ということです。

現代の中学生はそんな暇はありません。

山形県の中学生は山形県の入試問題を解かなければならない

山形県の中学生にとって、絶対的なのは、山形県の高校を受験する、という事実です。

(他県の高校を受験する人もおりますが、ここでは除外して考えます。)

つまり、山形県の高校入試問題を解かなければならないという、事実です。

受験対策学習はもちろん、日々の学習も、この事実から出発しなければなりません。

数専ゼミの教材作成基準

以上のことから、数専ゼミの教材がどのように作成されるのかの予想ができますと思います。

数専ゼミの教材は、体系性と系統性を重視して作成されています。

この体系性と系統性の基準が山形県の高校入試問題の範囲とレベルなのです。

中1、中2、中3の日々の学習で使う教材も、範囲とレベルは山形県の高校入試問題を元にして作成されています。

それぞれの学年のレベルで解ける入試問題を教材の中に組み込んで学習させます。

この教材を使って学習すれば、日々の学習が学校の定期テスト対策であり、同時にそのまま入試対策の学習にもなります。

教材作成の根拠

このような教材群が作成できるのは、

過去50年間に出題された山形県公立高校入試問題の分析データをもっているからです。

教科書の単元別に、出題年度、配点、難易度を調べました。

→「山形県公立高校入試出題問題分析表(数学)」

また、超重要単元である「1次関数」，「方程式・連立方程式」，「図形の総合問題(合同・相似・円・三平方の定理の融合問題)」などについては、さらに詳しく分析したデータをもっています。

(「1次関数」の動点と面積の問題の過去問分析は一部を公開しました。→ Essay_81~90)

これらの資料をもとに作成された教材を使い、て「学力化学習法」によって、“山形県”の入試に強い数学力を育てるのが数専ゼミの数学指導です。

山形県の入試に強い数学が学べる数専ゼミの数学教室です

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp